

高木復興大臣ふくしま心のケアセンターぶら下がり会見録
(平成28年5月28日(土) 14:55~14:58 於) 福島県福島市)

1. 発言要旨

よろしくお願いいたします。

本日は、北幹線第1仮設住宅におきまして、心の復興事業の視察を行いました。また、ふくしま心のケアセンターにて、職員の皆さんと意見交換を行わせていただきました。

心の復興事業の視察では、学生は自分たちがいることで内向きになりがちな被災者の皆さんの気持ちが、外向き、あるいは前向きになってもらえればという思いで、常駐ボランティアをしているというお話でございました。また、仮設にお住まいの方々からは、頼りにされて、元気を与えてもらえるというような話がございました。

被災者の皆さんは今後の生活に不安を抱えておられ、被災者の前向きな気持ちを引き出すこうした支援というものは、大変意味があるものだというふうに思いました。

また、ふくしま心のケアセンターの職員の皆さんとの意見交換におきましては、被災者への相談支援に加えて、被災者を支援する相談員や役場職員等への支援が重要になってきているというふうに感じました。避難者の帰還が進むと、生活再建が進む人とそうでない人とのそういう格差、あるいはまた再建のステージによって被災者の抱える課題が個別化、対応しているというような話、そういった課題が出てきておりまして、引き続き心のケアセンターの活動が重要であるということを確認させていただいたところでございます。

今後も被災地に寄り添いながら、現場主義に徹して、きめ細やかな対応を行い、被災地復興のさらなる加速化に向けて全力で取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 仮設を回られて、住人の方との懇談をされていたと思うんですけども、具体的に何か、どういった不安かというのを。

(答) やはりコミュニティーですね。仮設に移られたときも新しい、周りの方は新しい方で、コミュニティーづくりに御苦労なされた。ようやく少し、これまでに5年たったの、それは良くないというか、長過ぎるわけでありましてけれども、それでもコミュニティーうまくとれてきたんだが、ところがまた今度は復興公営住宅に、またばらばらでということ、また新しいコミュニティーをつく

らなきゃいけないというか、それが心配だと。やっぱり本当にこのコミュニティーというのは、避難者にとって大変、大切な、重要な課題だということを、しみじみと思いました。

(問) 段階、段階に応じたコミュニティーがあるということでしょうか。

(答) そうですね、ですから、どの段階においても、正に切れ目のないというふうに表現していますけれども、支援をしていくということが必要なんだろうというふうに思います。

(問) 今の職員の方々との意見交換で、何か支援で、具体的なこういったことを支援していただきたいというような意見、要望みたいなというのは。

(答) 今日はどういった現状かということをお聞きをして、具体的に、これまで同様のしっかりとしたサポート、私、その国からの支援というか、サポートというのを欲しいという、それはおっしゃいませんけれども、現状こういうことですよという報告で、そういうことだろうというふうに思います。

もちろん、先ほど申し上げたとおり、引き続き必要だと思いますし、また、新しいステージというんでしょうか、こういう年月もたってきましたので、さらに心のケアセンターというものの重要度というのは、ますます増してきているだろうと思います。

どうもありがとうございました。どうぞよろしく願いいたします。

(以 上)